

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
自ら学び ともに考え 行動する台小の子	『自ら学ぶ力・ともに考え・行動する力』

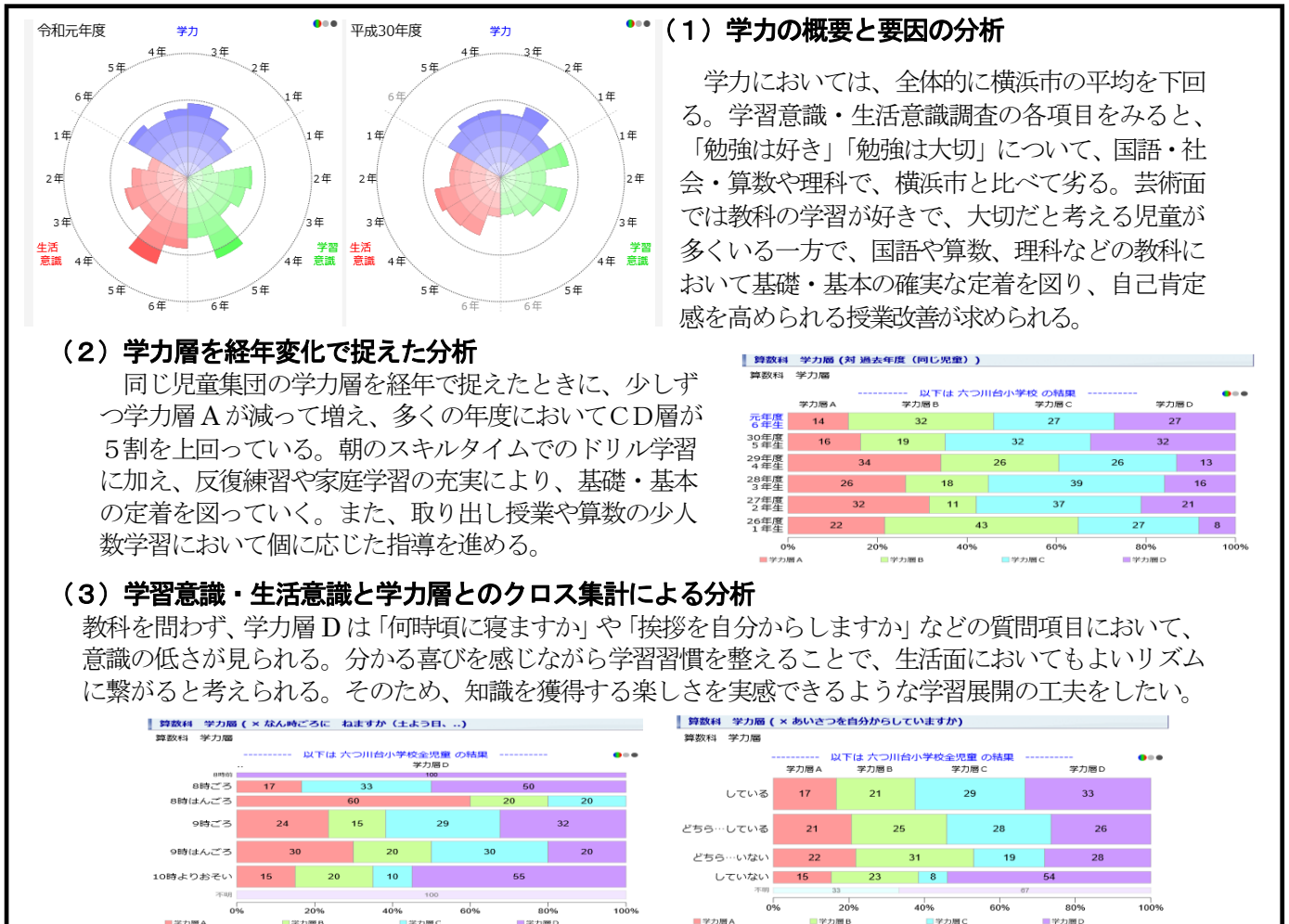
(2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>○子ども一人一人にしっかりと向き合いながら、地域とともに歩む学校づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことの意義や楽しさを知り、自ら学ぼうとする力を育てます。 ・積極的に人と関わり、協働しようとする意欲を育てます。 ・主体的に行動し、積極的に地域と関わろうとする態度を育てます。 ・家庭や地域、関係諸機関と連携を深め、開かれた学校づくりを進めます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	<p>①スキル学習の充実を図り、語感を高め、基礎基本の定着を目指すとともに、一人一人が自分の考えをもち、互いに認め合い高め合えるようにする。</p> <p>②「教科等横断的に育成を目指す資質・能力」の獲得を目指し、算数科の授業を柱に研究を推進する。</p>
担当	重点研推進委員会

2 横浜市学力学習状況調査等からの令和元年度の実態把握



3 令和2年度 教科等として育成を目指す資質・能力と具体的取り組み

	育成を目指す 具体化した資 質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	◆分かったできた喜びに出会う ◆最後まで共感的姿勢で話を聞き、自分の考えを相手に伝える	○幼児期までの経験を学びにつなぐ場や体験的活動を設定する。 ○「聞き方」「話し方」の基本となる姿勢や話型を掲示し、視覚的に分かりやすくする。 ○教師が模範を示すことからまねる活動をはじめ。	○体験的活動や学習の振り返りを教師が価値づけ、達成感をもたせる。 ○同じパターンを繰り返し行う。掲示物は、必要ときに確認できるようにする。 ○教師が模範を示さずとも、モデルとなるような姿を見せた児童を取り上げる。
2年	◆まねるなどして学びの型を知り、繰り返し学習する	○達成感(わかった・できた)を実感させて、主体的な学習(やってみよう)へと結び付ける。 ○指導者はできる限り一度しか話をしない。ストーリー・テリングを用いるなどして、聞き入る時間をつくる。 ○「話している人へ顔を向ける」「人が話しているときは、最後まで聞く」など、聞き方の型を徹底的に指導する。	○多様な聞く学習活動(楽しみながら学べる)を短い時間でも継続的に行う。 ○正しい聞き方で話を聞いている子どもを褒めて取り上げる。そのことで、子ども自らに「正しい聞き方ができた」体験を蓄積させていく。 ○指導者自らが子どもの話をていねいに聞くことで、聞き方の模範を示す。
3年	◆めあてにむかって自分の考えをもつ ◆相手の考えを理解し、比較しながら聞く	○児童の実態に合わせて単元の学習計画を立て、一時間のめあてを明確に設定する。 ○相手と比較して聞き、共通点や違いを伝えられるようにするために、話型を示す。 ○学習したことが実際の生活に生かされる場面を設定していく。	○学習の振り返りをする際に、身についた力を子ども自身が分かり、次のめあてを設定できるようにする。 ○聞く際のポイントを示すことで、相手の話を二つ以上の事項と比較しながら聞くようにする。 ○学活や総合、行事などと合わせて単元を組み替え、学習したことが生かされるようにする。
4年	◆進んで行動にうつす	○めあてを自分事と捉えられるように、具体物を活用して学習を進める。 ○相手の考えの理由に気を付けて聞き、自分の考えと比べる。 ○活動を振り返る時間を確保する。	○前時の学習での気付きや疑問から、めあてを自分事と捉える。 ○相手意識をもって、めあてを設定する。 ○活動を振り返る時間を確保する。
5年	◆積極的かつ粘り強く学習する ◆前の人と考えをつなげて話すこと	○ヒントや掲示物を用いて、課題解決の糸口を見つけられるようにする。 ○友達の見聞に耳を傾け、良さを認めて、自分と比較して考える。 ○学習の見通しがもてるように、より具体的に近い場面や掲示物等を使用する。	○子ども自らが単元を構想できるようにする。 ○話型を用いて、友達との話題の関連性について理解する。 ○互いに認め合う場面を作り、価値づけを徹底する。
6年	◆学習方法や内容を振り返り、学習を調整する	○学習に向かう意欲を喚起するための単元構想を行う。 ○相手を見て、心から聞くという話の聞き方を徹底して指導する。 ○友達と自分の考えを比べ、それに応じてつなぎ言葉を使って発言するように指導する。 ○学習のめあてを振り返る十分な時間を取る。	○子どもが選んだり、判断したりすることができる単元構想を行う。 ○つなぎ言葉を使って発言することができている子どもを価値付けする。 ○話の流れを考えて発言するように指導する。 ○振り返りをもとにして次時の問題を設定する。
個別支援学級	◆「めあてに向かう」主体性の育成、「やってみる」実行力の能力の向上	○一人一人の身に付けさせたい能力に合わせた学習課題の設定をする。また、達成感が味わわれる授業づくりに努める。 ○できた!という達成感を、次へやってみる!という学習意欲につなげる。挑戦したいと思える学習環境を整える。	○自分に合った学習めあてを選択したり、見つけたりできる主体的な学習環境にする。 ○自分の成長を感じることでできる授業づくりに努める。

